

三重県における成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの充実化に資する研究

研究分担者：丸山 貴也（国立病院機構三重病院 呼吸器内科）

研究要旨 人口ベースで成人の侵襲性細菌感染症を評価する体制を構築することで罹患率が算定でき、その特徴を解析することで、より適切な治療、予防を確立することができる。

A. 研究目的

1. 三重県の医療機関で発症した成人の侵襲性細菌感染症を評価する体制を構築する
2. IPD、IHD、STSS、IMDと診断された症例の患者情報と菌株を収集し、感染症研究所で莢膜型、遺伝子型、薬剤感受性などを精査する。

B. 研究方法

1. 三重県の基幹定点医療機関 9 施設 + 1 施設については保健環境研究所で菌株、患者情報を一括して収集し、国立感染症研究所へ送付する。
2. それ以外の医療機関については、三重病院で菌株を収集し、国立感染症研究所へ送付する。
(倫理面への配慮)

本研究では、必要な検体は、研究参加前に採取、保存されている菌株を用いるため、予想される不利益は少ないものと考えられる。

C. 研究結果

三重県在住者では、令和元年度はIPD28例、IHD 7例、STSS 9例が集積された。

今年度のIPDの特徴は平均年齢76.5歳で、男性の頻度が71%と高く、莢膜型は12F 5例（18%）、35B 3例（10.7%）が高い頻度で検出された。肺炎球菌ワクチンのカバー率はPCV13 vs PPSV23=25% vs 64.3%であった（図1）。

D. 考察

IPDに関して、小児に対するPCV導入（2010年PVC7、2013年PCV13）前、PPSV23のカバー率は約80%、PCV13では約70%と報告されている。三重県でもカバー率の低下が進んでいることが推察され、引き続き、厳密な追跡を要する。

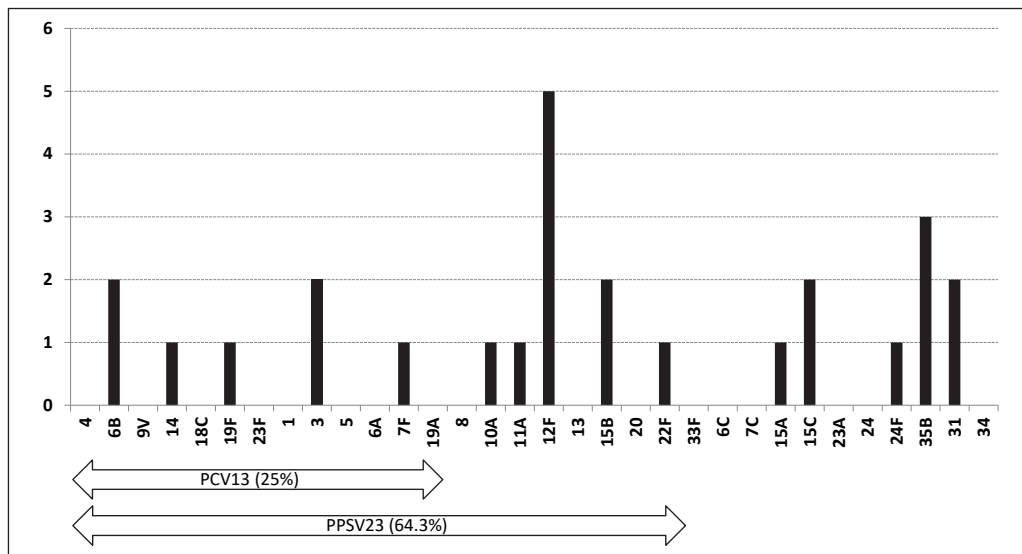


図1. 三重県の成人IPDの莢膜型と肺炎球菌ワクチンのカバー率（n=28）

E. 結論

令和元年度は、最も症例数が多く、三重県での研究は順調に進行している。行政部門と密に連携をとり、菌株と臨床情報の収集につとめる。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

- 1) 丸山貴也, 呼吸器セミナー～注目の医師主導試験と最新のエビデンス～, 第61回日本吸器学会中国・四国地方会

- 2) 丸山貴也, パネルディスカッション2「成人の予防接種について考える」, 第89回日本感染症西日本地方会学術集会
- 3) 丸山貴也, シンポジウム18. 適正に臨床研究を実施するためにできること、大規模臨床研究の運用の実際・第73回総合医学会

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得：なし
2. 実用新案登録：なし
3. その他：なし